

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2790900209		
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき高槻		
所在地	大阪府高槻市北昭和台町17-10		
自己評価作成日	令和元年11月2日	評価結果市町村受理日	平成32年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和元年11月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設7年目になりました。入居者の入れ替わりもあり徐々に雰囲気も違ってきています。人員不足は相変わらずで個々の職員の努力で入居者の生活を支援しています。目新しい事より日々の生活の支援が大事だと考えています。入居者の高齢化に伴い外出の機会が減ってきたことは確かです。出る機会より迎えることへの方向転換が必要になってきました。地域との接点に関しては、ふれあい喫茶や介護予防教室などの定期的な参加の継続、地域と保育園の夏祭りへの参加。運営推進会議も地域の方を招いて開催することが出来ました。また、支援学校生徒の実習受け入れも継続、交流も去年に引き続き行っている。来年度からは卒業生の雇用もしていきたいと考えています。また、施設外研修に関しては、法人全体での研修に参加。施設内でも月に一度の勉強会を継続している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人は、関西にグループホームや介護付き有料老人ホームを13か所、神奈川県にグループホームを3か所開設している。当事業所は開設して7年が経過し、利用者の高齢化や職員の入れ替わりで、利用者の生活環境が変わってきている。そのような中、利用者がトイレで排泄する、自分の名前を書くなど、人として当たり前にしていることができるように、管理者、計画作成担当者、職員とのコミュニケーションを図りながら、利用者本位の生活の支援をしている。事業所の近くには支援学校があり、定期的の実習生の受け入れて交流を図っている。利用者全員が車イス対応のため、外出の機会は減って来ているが、いろいろな地域のボランティアの受け入れるよう、準備を進めているところである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別に事業所独自の理念を作成し、施設内に掲示している。	法人と事業所の理念「みんなで支えあい気持ちをこめて」を、玄関や事務所に掲示している。職員は、利用者が当たり前のことが当たり前に行える生活が送れるよう、気持ちを込めて日々支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	支援学校生の実習の受け入れ、福祉コースの学生も受け入れ。また、保育園夏祭りの参加、地域主催イベントへの参加を行っている(ふれあい喫茶、介護予防教室など)	地域で開催されるふれあい喫茶に定期的に参加している。地域包括支援センター主催の介護予防教室にも参加していたが、利用者が長く座っていることができなくなって来たため、今年は文化祭に参加した。保育園の夏祭りへの参加や、年6回の支援学校生の実習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、包括などの会議などでは具体的な事例をお伝えしている。スタッフが屋外に出る時は、名札にオレンジリングを付けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の会議では評価、疑問などの意見を必ず頂くようにしている。現場にフィードバックできるように努力している。ケア会議にも参加。	地域包括支援センター職員、民生委員、家族、利用者と事業所職員が参加して、奇数月の第4か第5土曜日に会議を開催している。会議では、事業所の運営状況を報告し、参加者から意見を聞いて運営に活かしている。議事録は、家族がいつでも見ることができるよう、玄関に掲示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修会を通じ、交流を図っている。	事業所は、生活保護の利用者の受け入れを行い、市の生活保護担当部署には毎月行っている。市の主催する研修会に参加したり、毎月2名の介護相談員の受け入れを行っている。地域包括支援センターとは、運営推進会議への参加や、情報提供、提案を受けるなどで協力関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修、法人での勉強会、アンケートや、実際にあった事例などを掲示し、理解を深めている。玄関は防犯上施錠している。	2か月に1回、身体拘束適正化委員会を開催している。内部研修や職員アンケートを行い、職員は身体拘束の弊害について理解している。言葉による拘束や不適切な対応に職員が気付いた時には、互いに注意し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	二か月一回虐待・身体拘束の勉強会を開催。会社においても開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を選任されている入居の方もおり、家族の相談に受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすく丁寧に、書類、文書を用いて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理簿を作成、ファイリングを行っている。本社にも報告、丁寧な対応を行っている。	玄関に意見箱を設置し、法人による家族アンケートを実施して、家族の意見や要望を聞く機会を設けている。また話しやすい雰囲気作りに努めて、家族の訪問時や電話で直接意見を聞いている。事業所から毎月家族に送る便りで、利用者の生活の様子や事業所の情報を提供して、意見を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内職員会議を月に一度、また社内では他施設管理者と合同での管理者会議を行っている。	月1回、業務終了後の午後5時から職員会議を開催し、法人による職員アンケートを実施して意見、提案を把握している。管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを大切にしているため、職員は意見や提案を発言しやすい環境である。外部研修は、希望した職員や管理者から指名された職員が参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に対し、半年に一度管理者が面談、その内容を本社に提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に法人作成のチェックシートを配布、研修を行っている。また法人内の新施設向け研修に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括や、居宅支援事業所の集まりに参加させて頂き、情報を得ている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談、ケアプラン原本作成時に本人の意向を聞いている。また、居室担当を配置し、より細かいケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談、施設見学、入居契約時、初回ケアプラン作成時に家人に説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせ、初回面談の際に聞き取りを行い、ニーズに合っているか、当施設に合っているか検討を行い、もし合わない場合は他サービスの提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の状況に合わせて日常の中で参加して頂くように支援しているが、充分とは言えない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家人様へは月に一度ご様子をお伝えする手紙を出している。その際に施設行事の告知を行い、参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家人様への聞き取りなどを参考にしながら、可能であれば近隣まで出かけてみる支援を行っている。自宅で使用していた物品をこちらでも持込んで頂いている。	利用者が今まで利用していた馴染みの場所に行ったり、馴染みの人と会うための支援はしていないが、電話で馴染みの人と話ができるよう支援をしている。頻回に面会に来てくれる家族がおり、利用者を墓参りに連れて行ってくれる。地域で開催されるふれあい喫茶に参加し、新たな馴染みの関係ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を観察しながら、適所で席替えを行ったり、ソファでリラックスできる空間を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為一旦退去されても、再入居できる条件であれば、再び入居可能にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に思いを聞き取りしている。また、要望シートを作り、書き留めておくことで、食事や外出内容に反映できている。	利用者一人ひとりの意見や要望を聞くために、職員は居室担当制にし、利用者の言葉や思いを要望シートに書き留めている。意向を伝えられない利用者は表情から読みとり、計画作成担当者や情報共有して、利用者の立場に立った計画の作成に留意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で、ケースワーカーやケアマネなど支援に携わった方から聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に一度モニタリングを行い、変化があれば再アセスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファの際に家人、主治医からも意見を頂くようにしている。	居室担当者、管理者、主治医の意見を参考にし、計画作成担当者が介護計画を作成している。介護計画に沿って支援ができているか、毎月モニタリングを行って検証している。介護計画は3ヶ月ごとに作成し見直しているが、利用者の体調変化や新たな課題が発生した時には、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人1枚の生活記録であり、24時間対応であることから、1枚でその日1日の様子が把握できるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	具体的に柔軟なサービスとは？個々の入居者や家族の想いに沿ってサービスを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、近所の保育園や支援学校との交流を図っている。迎え入れる体制作りが課題。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間連絡体制の取れる提携医療機関の情報提供を行っている。適切な医療が受けられるよう支援を行っている。	入所時に本人、家族、事業所間で良く相談して、かかりつけ医を決めている。現在は24時間医療連携している協力医を、利用者全員がかかりつけ医としている。内科は月2回、歯科(希望者)は毎週往診を受けている。他に希望者のみ眼科の往診を受けている。他の科への受診は、家族の同伴を基本としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師との連絡相談体制がある。医療連携加算を今年度より算定し、週一回ナースがきて健康管理、指導を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には定期的に訪問し、担当の相談員などから情報の把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを希望される場合は、主治医を交え書面にてケアの説明を行い同意を得ている。	入所時に、重度化した場合の対応に関して、事業所としてできること、できないことを、口頭で利用者、家族に説明している。利用者が重度化した時には、かかりつけ医、家族、事業所間で話し合っ、指針書に基づいて家族の意向を確認し、同意を得て方向性を共有している。今迄に看取りも数例経験しており、体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法を各事務所内に掲示。また内部研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回訓練を行っている。夜間想定 of 避難訓練も行い、消防から具体的な避難方法を指導されている。風水害・地震などを想定した訓練も来年度に実施。	年2回、消防署指導の訓練と自主訓練を実施している。火災、風水害、地震に分けてマニュアルを作成している。水・缶詰・衛生品などを備蓄しているが、地域の人の訓練への協力が得られていない。	訓練には近隣の人の協力が是非必要であり、運営推進会議で、地域の参加者に災害時の利用者の見守りの必要性を訴えて、協力してもらうことが望まれる。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チェックシートの活用。シートを見ながら、自己のケアの振り返りを行ってもらっている。 施設内研修で接遇を取り入れている。	利用者を人生の先輩と考え、尊厳とプライドを損なわないような対応を心がけている。接遇研修を通じて、トイレへの誘導や居室への入室(ノック3回)などに配慮し、何か問題があれば職員間で互いに注意し合える職員関係ができています。個人情報関係の書類は、キーのかかるロッカーに厳重に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方でも疑問形の言葉かけを行い、なるべく自己決定して頂けるよう工夫している。日頃の様子などしっかり把握して活かせるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、自己決定されたことを尊重させてもらっている。自己表現が難しいこともあり家族からの希望も聞き取っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と一緒に衣類の選定、身だしなみなどを配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけなど、出来る範囲で協力して頂いている。	昼食、夕食のメニューと食材は業者より配達され、職員が調理しているが、朝食は職員がメニューを考えて調理している。職員は利用者と同じ食事をしながら、食事介助と見守りをしている。利用者の希望する食事やイベント食、お好み焼きやおせち料理などにも対応している。家族と外出して外食を楽しむ利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	往診時に血液検査などのデータを元に、主治医と栄養状態の確認を行い、食欲不振の場合には補助食品や本人様の欲しいものの提供を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。また、週に1度訪問歯科があり、スタッフに指導してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンに併せてケアをしています。	排泄パターン表より利用者個々の排泄の間隔を把握し、排泄の自立に向けて、時間少し前にトイレへと誘導している。利用者には布パンツ、リハビリパンツとパッドで対応し、夜間は睡眠妨害にならないように、個々に応じた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、時間がある時には散歩など、運動不足の解消に努めているが、困難な場合は薬の調整を主治医と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2日入浴できるように支援している。本人の希望により時間帯をずらしたり、日ちを変更している。	入浴は週2回午前中に行なっているが、利用者の希望があれば柔軟に対応している。季節の柚子湯、菖蒲湯、日常は入浴剤を活用して喜ばれている。入浴中は開放感があるので利用者の話を聞き、身体チェックも行っている。入浴拒否があった場合は、人、時間、日時を変更して入浴してもらうように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況、生活リズムに合わせて安心して生活して頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者と主治医、訪問看護師にて毎回確認を行っている。 変更があった場合は申し送りをし、ファイルに記載し。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク用品を各種準備している、個人・集団でできるメニューを実施している。子供っぽくならないように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節のいい時は、日に一回は外の空気をを感じるようにしている。家族との外出される入居者もいます。	利用者は全員車イス対応で、外出がなかなか難しいが、事業所周辺の散歩やふれあい喫茶への参加、庭の花の植え替えや、野菜作りを職員と一緒にしない、気分転換を図っている。家族と外出して、外食や家族団らんの時間を過ごす人もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりはしていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に合わせ、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や季節ごとの飾りつけを行っている。毎日掃除を行い、清潔に保っている。また、テレビの音量やスタッフの声の大きさにも注意している。	リビング兼食堂には、イベントの写真やカレンダー、書道と、利用者との共作のクリスマスなどの飾り物があり、季節感を醸し出している。室内は明るく、清潔に保たれている。建物の前にはJR東海道線が走り、リズム音が聞こえてくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの他にソファを設置、少人数で過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを持ってきていただくようにお伝えし、居室内のタンスなども移動して個人の空間を作っています。	居室にはベッド、エアコン、カーテンが設置され、利用者は家庭で使い慣れたテレビ、タンス、仏壇、家族の写真などを持ち込み、快適な生活が送れるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境の中で、本人の生活動作が妨げられないよう、動線の確保を意識している。		